

平成 19 年度 春期 システム監査技術者 午後Ⅱ 出題趣旨

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1 〔出題趣旨〕

ビジネスの IT への依存度が高まる中、システム監査の必要性はますます高まっている。一方で、監査対象の拡大や複雑化によって、システム監査人自体も IT 監査技法を用いて、効率よく、効果的な監査を実施する必要があるが出てきている。

本問は、監査目的や監査対象に応じてどのような IT 監査技法を用いて監査手続を実施すべきかについて、具体的に論述することを求めている。

本問では、システム監査人として、IT 監査技法を用いるための基本的な能力や、IT 監査技法を適用する場合の留意点についての理解度を評価する。

講評：

問 1（システム監査における IT の利用について）は、3 問の中で最も選択率が低かった。監査の経験を前提とした問題としてとらえられ、日ごろ監査業務に従事している受験者に選択が限られたものと思われる。設問イでは、IT 監査技法については論述されているが、監査要点に結び付けて具体的な監査手続まで踏み込んだ論述は少なかった。また、設問ウでは、問題文に事例を挙げ、IT 監査技法を用いる場合の組織的な留意事項についての論述を期待したが、監査人としての留意事項だけを論述したものが多かった。

問 2 〔出題趣旨〕

情報システムが業務と密接にかかわっている状況において、情報システムの新規構築や機能改良、ハードウェアの更改などが絶えず行われている。その中でも外部から調達する比重が大きく、限られた予算の中でいかに適切な調達を行うかがますます重要になってきている。

本問は、重要な監査領域の一つとなってきた情報システムの調達管理の監査について、具体的に論述することを求めている。

本問では、情報システムの調達におけるリスクを踏まえて、調達管理の適切性や調達の効率性について、監査を実施する場合の監査手続を具体的に設定する能力と洞察力を評価する。

講評：

問 2（情報システムの調達管理におけるシステム監査について）は、選択率が最も高く、情報システムの開発やパッケージの導入に関わる調達についての論述が多かった。調達プロセス全体の観点から、具体的なリスクとコントロール、監査手続を論述することを期待したが、システム開発におけるプロジェクト管理の内容や調達プロセスの一部の内容、又は一般的で具体性のない論述が多く見受けられた。

問 3 〔出題趣旨〕

近年、多くの組織において不祥事が頻発した結果、組織には、従業員の行動などをモニタリングし、不正行為の予防、発見、対応などを確実にを行うことが求められるようになってきている。また、組織の情報をより有効に活用するために、情報利用者の行動をモニタリングし、分析する組織も増えてきた。

本問は、このような社会的背景と情報システムを用いたモニタリングの構築と監査について、具体的に論述することを求めており、論述を通じて、情報システムを用いたモニタリングのメリットと問題点を踏まえた運用のあり方と、監査上の着眼点を評価する。

講評：

問 3（情報システムを利用したモニタリングとシステム監査について）は、選択率が高く、多くの組織がモニタリングを実施するようになった社会的背景についてはよく理解されていた。しかし、受験者自身が関係する組織におけるモニタリングの意義や効果をシステム監査人の視点で的確にとらえた論述は少なかった。また、設問ウでは、モニタリングに関するシステム監査の手続ではなく、モニタリング自体の手続を論述したものが多かった。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。